

遠州舞台に妖怪漫画

静岡文化芸術大卒 まるかわさん(浜松)



静岡文化芸術大(浜松市中区)卒業生の女性漫画家まるかわさん(28)＝同市在住＝がこのほど、遠州地方を舞台に人間と妖怪などが織りなすのどかな日常を描いた漫画「よろずの候」(新書館)の第1巻を刊行した。作品は少女漫画雑誌に連載中で「地方在住漫画家だからこそ描ける作品」にこだわり、制作を続けている。

雑誌連載の短編集刊行 のどかな日常描く

幼い頃から漫画を描くのが好きだった磐田市出身のまるかわさん。同大在学中に授業の課題のため、浜松市天竜区の秋野不矩美術館を訪れた。周囲を散歩すると自然や商店街が共存している街並みに魅力を感じ、回区を

舞台とする漫画の構想が浮かんだ。同大卒業後は就職し、仕事をしながら漫画を描き続けて2015年に「よろずの候」のもとになった「よろずのこと」をウェブサイトで公開。新書館編集者の目に留まり、17

年6月から少女漫画雑誌「ウイングス」で連載を始めた。作品は短編集で、伝説や民話を基にした妖怪のキャラクターはかわいらしいのが特徴。天竜浜名湖鉄道の駅や阿多古川、浜松餃子などが登場し、同大をモチーフにした架空の「浜松文化大学」も舞台の一つになっている。

キャラクターは「しよんない」(仕方がない)、「やつきりする」(腹が立つ)、「まがしょう」(任せろ)などの方言を使うため、標準語の脚注を添えた。

まるかわさんは「作品を読んだ県外の読者が遠州地方に興味を持って遊びに来るきっかけになれば」と期待している。全国の書店で販売中。630円(税抜き)。(浜松総局・小沢佑太郎)

遠州地方を舞台に人間と妖怪などが織りなす日常を描いた漫画「よろずの候」の第1巻とまるかわさん

＝浜松市中区